

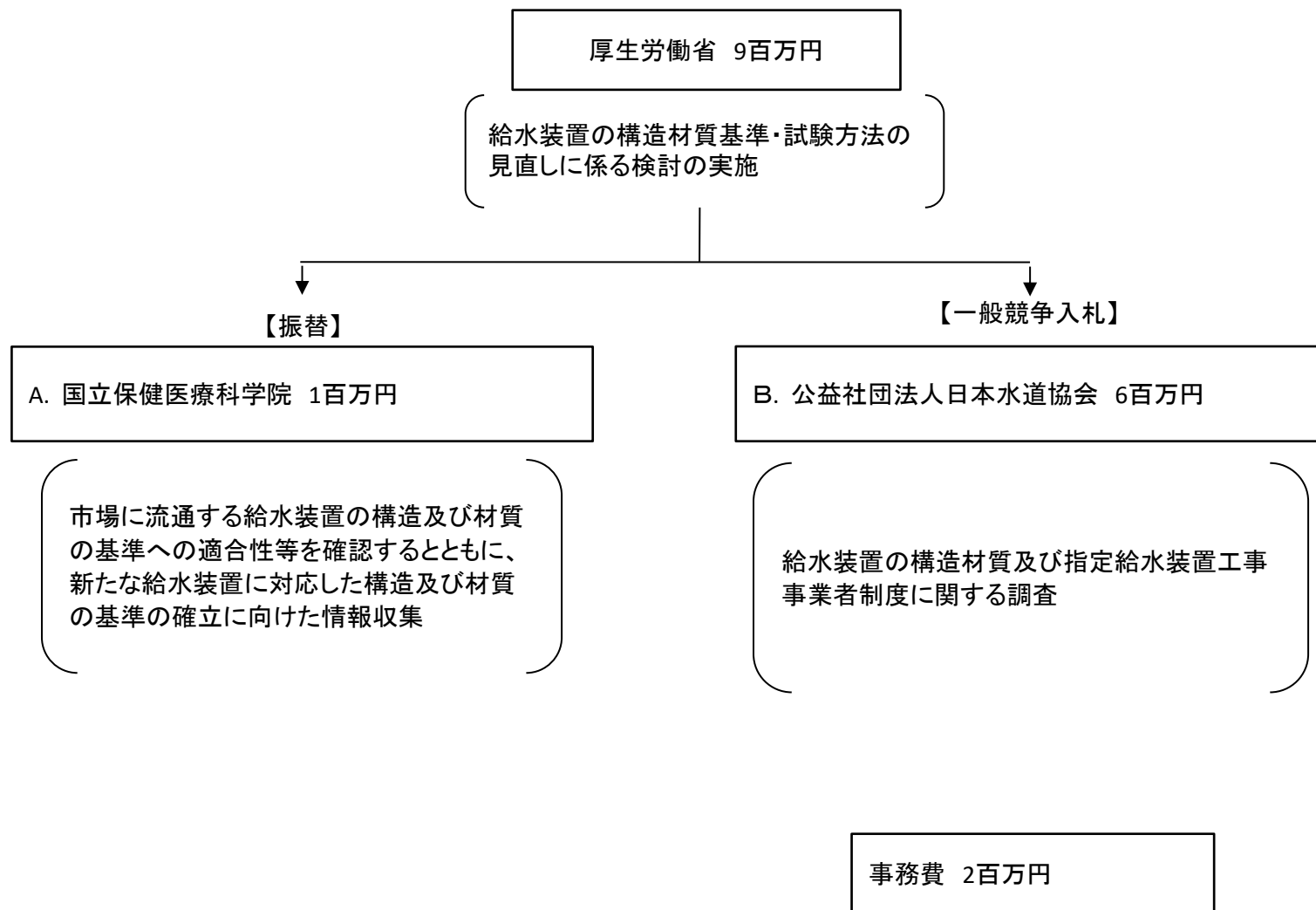
平成28年度行政事業レビューシート ( 厚生労働省 )

事業名	給水装置等対策費			担当部局庁	生活衛生・食品安全部			作成責任者		
事業開始年度	平成9年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	水道課			水道課長 宮崎 正信		
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な条項も記載)	水道法第16条			関係する計画、通知等	「給水装置の構造及び材質の基準に関する省令の一部を改正する省令及び給水装置の構造及び材質の基準に係る試験の一部改正について」					
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	安全な給水を確保するために、給水装置の構造材質基準を適宜評価し、必要に応じて見直しの検討を行う。本事業では、基準の見直しの検討に資するため、新技術や新材料等に対応するための施工技術調査や給水用具の基準項目に関する調査を実施し、また我が国の基準や規制方法等について整理・把握を行う。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	我が国の給水装置の構造材質及び指定給水装置工事事業者制度に係る調査検討及び我が国の市場にある給水用具に対する構造材質基準への適合性に関する調査の実施									
実施方法	委託・請負									
予算額・執行額 (単位:百万円)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	12	10	9	9	9			
		補正予算	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-				
		予備費等	-	-	-	-				
	計		12	10	9	9	9			
	執行額		12	10	9					
執行率 (%)		100%	100%	100%						
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 毎 年度	
	本事業の成果を基に必要に応じて構造材質基準の見直しや運用等を適宜行い、構造材質基準を満たしていない給水装置工事の件数の0件を目指し、安全な給水装置工事を確保していく。	構造材質基準を満たしていない給水装置工事の件数(違反報告の件数)	成果実績	件	0	0	0	-	-	
			目標値	件	0	0	0	-	0	
			達成度	%	100	100	100	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	給水装置構造・材質等調査実施項目数	活動実績	調査項目数	264	140	154	-			
		当初見込み	前年度程度	896	264	140	154			
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	給水装置に係る課題検討数	活動実績	調査項目数	6	6	7	-			
		当初見込み	前年度程度	4	6	6	7			
単位当たりコスト	算出根拠			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	単位当たりコスト = X / Y X:「国立保健医療科学院振替額」 Y:「給水装置構造・材質等調査実施項目数」			単位当たりコスト	円/項目数	6,742	7,143	6,493	6,493	
				計算式	X / Y	1,780千円/264	1,000千円/140	1,000千円/154	1,000千円/154	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	単位当たりコスト = X / Y X:「執行額-国立保健医療科学院振替額」 Y:「給水装置に係る課題検討数」			単位当たりコスト	千円/検討数	1,667	1,500	1,143	1,143	
				計算式	X / Y	10,000千円/6	9,000千円/6	8,000千円/7	8,000千円/7	
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由						
	食品等試験検査費	7	7							
	諸謝金	0	0							
	委員等旅費	1	1							
	庁費	0	0							
	職員旅費	1	1							
	計	9	9							

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策評価	政策	Ⅱ-2 安全で質が高く災害に強い持続的な水道を確保すること							
	政策評価	施策	Ⅱ-2-1 安全で質が高く災害に強い持続的な水道を確保すること							
	政策評価	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
			実績値	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	<p>・諸外国における水道システム・給水装置の構造材質及び給水装置の施工に係る規制・基準等の調査・我が国の給水装置の施工、構造材質基準に係る調査検討及び我が国の市場にある給水装置に対する構造材質基準への適合性に関する調査を実施する。          新技術や新材料等に対応するための施工技術調査や国内製品の基準項目に関する調査を実施し、また我が国の基準と諸外国における各種基準や規制方法等について整理・把握を行うことを通じて、給水装置の構造材質基準の適宜見直しを行うことにより、水道水のより安全な供給に寄与すると見込んでいる。</p>									
	改革項目	分野:	社会資本整備等	② 地方公共団体による公共施設等総合管理計画の策定促進と、ストック適正化に向けた国の積極的な役割						
	経済・財政再生アクション・プログラム	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 16 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 毎 年度
			個別施設(道路、公園などの各施設)ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率(水質基準適合率)	成果実績	%	99.9	集計中	-	-	-
目標値				%	100	100	100	-	100	
達成度				%	99.9	-	-	-	-	
経済・財政再生アクション・プログラム	(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
<p>本事業は、安全な給水を確保するために、給水装置の構造材質基準を適宜評価し、必要に応じて見直しの検討を行うものであり、本事業の推進は、水質基準適合率の向上に資するものである。</p>										

事業所管部局による点検・改善																							
	項目		評価	評価に関する説明																			
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	安全で質の高い水道を確保するため、給水装置の構造材質基準の適宜見直しを行うことは広く国民のニーズが高く、国費を投入しなければ事業目的が達成できない。																			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	給水装置の構造材質基準については全国一律に行うべきものであり、国が実施すべき事業である。																			
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	給水装置の構造材質基準を遵守し水道水の安全性を確保するとともに水道利用者等のニーズに対応するために、新たな技術や製品等の調査や評価を行い必要に応じて基準の検討を行っており、優先度の高い事業である。																			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	業務を実施するにあたり、一般競争入札を行い、競争性の確保を図っており支出先の選定も妥当である。今後は、広い範囲からの応札が可能となるよう仕様書の内容を検討する予定である。																			
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		有																				
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無																				
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	本事業を実施することで安全で質の高い水道が受益者(国民)に提供されることから、負担関係は妥当である。																			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	調査実施項目数によるところがあるが、適正な執行を行い、単位当たりコスト削減に今後も努めることとする。																			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-																			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	成果物の発注及び納品過程において費目・使途を十分に把握できており、事業目的に真に必要なものに限定されている。																			
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	成果実績は、成果目標と比較して十分に見合ったものとなっている。																			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	活動実績からみて他の手段と比較して実行性の高い手段といえる。																			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	見込み(前年度実績)に比べて減少しているものもあるが、概ね見込みに見合ったものとなっている。																			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	成果物を活用し基準の検討を行っており、成果物は十分に活用されている。																			
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所管府省・部局名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		所管府省・部局名	事業番号	事業名															
	所管府省・部局名	事業番号	事業名																				
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	研究機関へ振替による執行を実施することにより、専門的知見を効率的に収集することが可能である。																				
点検・改善結果	点検結果	活動指標としている給水装置構造・材質等調査実施項目数については、予算額及び調査材料の種類等により増減しているが、給水装置の構造及び材質基準への適合性を確認するとともに、新たな材料や技術・システムによる給水装置にも適切に対応した構造及び材質の基準を確立するために重要な調査となっている。平成28年度以降についても、安全で質の高い水道を確保し、給水装置の構造材質基準の適宜の見直しを行うために、単位あたりコスト削減を含めて適正に執行することに努める。																					
	改善の方向性	給水装置の構造材質基準の適宜見直しを行うため、構造材質等調査を行っており、検討課題については優先度が高いものから検討会等で審議し、省令改正等により対応している。今後については、未審議である課題や新たな給水装置について、優先度を考慮しながら順次、検討審議を行い、適切な対応を行っていくこととする。																					
外部有識者の所見																							
点検対象外																							
行政事業レビュー推進チームの所見																							
現 り 状 通	安全で質の高い水道を確保するため、給水装置の構造材質基準の適宜見直しを行うために必要な事業であり、引き続き、必要な予算額を確保し、適切な執行に努めること。																						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況																							
現 状 通 り	-																						
備考																							
関連する過去のレビューシートの事業番号																							
平成22年度	336	平成23年度	305	平成24年度	264																		
平成25年度	313	平成26年度	323	平成27年度	335																		

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
行っているかにつ  
いて補足する)  
(単位:百万  
円)

